

茨城県衛生研究所  
中期運営計画実績評価書  
(平成 23 年度から平成 27 年度)

平成 28 年 11 月

茨城県衛生研究所

評価委員会

## 衛生研究所 実績評価

【総合評価】 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組を実施していると判断できる。	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価 A
	A-	A-	A-	A+	A	

### 【委員からのコメント】

少ない人数で、安定性が重要視される定型業務とスピードが重要視される危機対応の両方をこなされていることは素晴らしい。特に、当該計画期間中には東日本大震災と関東・東北豪雨という二つの大きな災害があり、衛生研究所にも大きな負担がかかったと推察される。

5年の間には、感染症情報センター業務の移行と組織改編による試験検査業務の移行があり、職員の教育・研修を同時並行で進めるのは大変であったと考えられるが、順調に推移しつつあると感じる。また、初期に比べ、職員がとても活発になり、試験検査業務が多い中でも調査研究活動や情報提供・発信に努力していることが感じられる。

今後の課題として、科学的事実、エビデンスに基づいて、より積極的に県行政に関与できるだけの力を発揮して欲しい。また、学会等での発表が多数行われているのに対し、学会誌への掲載が少ないので、特に調査研究の成果や他機関との共同研究の成果の論文文化が望まれる。

近年、新たな感染症の流行や危険ドラッグの流通などが危惧されることから、職員のスキルアップや機器の高度化などの機能強化が必要になると思われる。更なる取組を期待するとともに、研究所単体での対応が困難な事例も想定されることから、国の研究所や大学など他機関との連携強化を意識しながら業務執行にあたられたい。

### i) 県民に対して提供する業務

#### 1) 試験研究(完了課題)

年度	研究課題	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
H23	1) 茨城県の感染症発生時における検査体制の確立に関する試験研究	B					A
H24	1) カンピロバクター属菌の菌数測定技術とPFGE法(パルスフィールドゲル電気泳動法)を用いた疫学に関する試験研究		A				
H25	1) カンピロバクター属菌のPFGE法(パルスフィールドゲル電気泳動法)を用いた疫学に関する試験研究			A			
	2) 医薬品類の安全性に関する調査研究(健康食品)			A			
H26	1) 二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析				A		
	2) カンピロバクター属菌のPFGE法(パルスフィールドゲル電気泳動法)を用いた疫学に関する試験研究				A		
	3) 健康危機管理情報に関する調査研究				A		
	4) 医薬品類の安全性に関する調査研究(家庭用品)				A		
H27	1) 残留農薬試験法の前処理法の検討					A	

### 【委員からのコメント】

計画期間中に終了した6課題のうち3課題は既に試験検査に導入されているということで、成果が直接役立っている点が評価できる。また、新規性・進歩性のある研究にも取り組み、計画期間中に2報の査読付き英文論文を発表したことは評価に値する。

衛生研究所は保健衛生分野の試験研究機関ではあるが、県内の他分野の公設試とより深く連携して、県民の保健衛生の向上と県経済の発展とを効率よく二兎追いすることも不可能ではないと思うので、うまくマネジメントしていただくことを期待する。

今後は調査研究の基本的な方向性が内部で共有され、技術や経験が継承されていくことが理想である。研究マインドと技術を持つ人材は極めて貴重であり、現実には人事異動等で困難を伴うと思料されるが、関係各部門が連携して人材を育成する観点から特段の配慮がなされるべきである。

評価項目	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
i) 県民に対して提供する業務						
2) 試験検査	A	A	A	A	A	A
3) 研修指導	A	A	A	A	A	A
4) 公衆衛生情報等の収集・解析・提供	B	A	B	A	A	A
ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策						
1) 全体マネジメント	B	A	A	A	A	A
2) 他機関との連携	A	B	A	A	A	A
3) 内部人材育成	B	A	B	A	A	A